

1【里山保全】みたけの里山・森林とふれあおう！

A～Eの5段階で達成度を評価する
 A…100% / B…75% / C…50% / D…25% / E…0% (未着手)

■里山・森林整備活動団体や事業者と連携した体験講座等の実施

①	親子などを対象にした林業体験講座の実施	農林	【5年後の成果】 2講座を継続	【目標】 5講座の実施 【内容】 企業の森活動の適切な実施	【結果】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため企業の森活動は中止となった。 【来年】 5講座の実施	E
②	山の恵みを知ることや、山菜取り、山菜料理体験を実施	教委	【5年後の成果】 1体験を継続	【目標】 山に関わる体験の継続 【内容】 <上之郷中学校> ・茶園除草活動 ・茶摘み、茶もみ体験活動 ・焙炉、茶話会活動	【結果】 上之郷中学校が山に関わる体験を実施した。今年度は新型コロナウイルスの影響で、茶園除草活動のみとなった。 (茶摘み、茶もみ体験活動、焙炉、茶話会活動は実施できなかった) 【来年】 上之郷中学校において、山に関わる体験を継続して実施する。	D
③	里山・森林を知る散策ルートなどのリニューアル	農林	【5年後の成果】 考案中	【目標】 県補助事業による林道補修の確実な実施 【内容】 八嵩林道の補修	【結果】 八嵩林道の176mの補修を行った。 【来年】 栢森林道の橋梁補修	A

■里山・森林の保全を学ぶ(担い手の育成)

④	幼・保・小・中・高等学校での環境教育(森林環境学習含む)や生涯学習講座で里山・森林の現状を学ぶ	農林 教委	【5年後の成果】 幼・保の実施を検討	【目標】 [生涯学習課]成人講座でのみたけの森散策を実施する。 [農林課]2講座の実施 [学校教育課]年間2講座を実施する。 【内容】 [生涯学習課]御嵩町の自然などを見つめなおし、課題や取り組みを学ぶ。 [農林課]御嵩小学校等の環境学習の実施 [学校教育課] <上之郷小学校>・みーもの松の観察(4年生) ・秋見つけ(1年生) <御嵩小学校> ・水土里隊の基地見学(5年生) ・里山森林体験(4年生) <伏見小学校> ・みたけの森散策 <上之郷中学校> ・環境調査 <向陽中学校> ・御嵩町内オリエンテーリング <共和中学校> ・環境マイスターによる講和 ・みたけの森自然観察(1年生)	【結果】 [生涯学習課]新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため講座を中止した。 [農林課]1講座の実施(10/15・11/6御嵩小学校環境学習) [学校教育課]3校が計4回実施した。 新型コロナウイルスの影響で実施校、実施回数が減った。 上之郷小学校:11/10 秋みつけ・木の実採集(みたけの森) 御嵩小学校:11/6 環境教育(水土里隊拠点付近) 12/11 ささゆりクリーンパーク見学・体験、 上之郷中学校:1/6 自然環境調査(川の水質検査)・ごみ拾い活動 【来年】 [生涯学習課]引き続き講座を開設する [農林課]2講座の実施 [学校教育課]全校で年間2回実施する。	C
⑤	児童生徒を対象にした林業体験の実施	農林 学校教育	【5年後の成果】 事業を展開	【目標】 [農林課]2講座の実施 [学校教育課]年間2講座を実施する。 【内容】 [農林課]御嵩小学校等の環境学習の実施[学校教育課] [学校教育課]<御嵩小学校>・環境教育(5年生)・森林整備(4年生)	【結果】 [農林課・学校教育課]1講座の実施(10/15・11/6御嵩小学校4年生) 10/15:教室で座学 11/6:水土里隊拠点で体験講座 【来年】 [農林課]2講座の実施 [学校教育課]御嵩小学校で年間2回、環境教育及び森林整備を実施する。	C
⑥	里山・森林整備活動団体(事業者含む)のメンバーを増やす	農林	【5年後の成果】 水土里隊40名 企業4団体	【目標】 1名以上の新規入隊 【内容】 随時森林ボランティア(水土里隊)入居者募集	【結果】 1名の新規入隊 【来年】 1名以上の新規入隊	A
⑦	里山・森林保全の先進地で視察や体験研修を実施	環境 モデル	【5年後の成果】 1研修を継続	【目標】環境都市交流体験プロジェクト(北海道下川町への派遣)を実施する。 【内容】「環境都市交流体験プロジェクト2021」に町内中学生と水土里隊員を派遣し体験研修をおこなう。	【結果】新型コロナウイルスの影響により事業を中止した。 【来年】里山・森林保全に係る視察や体験研修を実施する。	E

■里山・森林などの資源を活用する

⑧	空き家などを活用した農業体験の実施	農林	【5年後の成果】	【目標】 農業体験施設を拠点とした体験を実施	【結果】稲作体験15名、さつまいも収穫体験30名の計45名が参加した。	A
			事業を展開	【内容】 稲作・さつまいも収穫体験を実施		
⑨	間伐材や竹の利活用の検討（薪やスプーン、おもちゃづくりなど）	農林 教委	【5年後の成果】	【目標】 【農林課】間伐材を活用した事業の展開 【学校教育課】間伐材を活用した事業の展開	【結果】 【農林課】水土里隊にて、間伐材を利用した新型コロナウイルス感染拡大防止のための飛沫防止アクリル板の土台を作成した。 また、中山道みたけ館へ薪を提供した。 【学校教育課】伏見小学校が木のスプーン作りを実施しなかったため、実施なしとなった。 →【環境モデル都市推進室】中山道みたけ館に薪ストーブを設置し、薪を継続的に利用する環境を整備することができた。	B
			検討中	【内容】 【農林課】企業の森活動での実施 【学校教育課】＜伏見小学校＞・木のスプーン作り（4年生）		

■里山・森林などの現状を伝える

⑩	イベント開催時にPRブースなどを展開し参加者への周知を行うとともに町広報紙やHP（SNS含む）、CTKなどを活用し、広く周知する	農林	【5年後の成果】	【目標】	【結果】 【農林課】新型コロナウイルス感染拡大防止のため企業の森活動は中止。FMららにて水土里隊武藤さんと共に出演し森林の状況、大切さを周知した。 【環境モデル都市推進室】薪ストーブの導入と合わせ、広報誌・FMらら・展示パネルを活用し、森林の現状や森林資源の利用促進を周知した。	B
				【内容】 各企業との協働による森林づくり活動		
⑪	各種団体や各学校などが活動成果や学んだことを環境フェアなどで発表する	教委	【5年後の成果】	【目標】	【結果】環境フェアが開催されなかったため、役場北庁舎に各学校の学習の成果を展示（2/15～3/12）した。	A
				【内容】 【学校教育課】小中学校の環境学習のまとめを環境フェアなどで展示または発表する。		
⑫	里山・森林整備活動団体や住民から情報収集を行うとともに、里山・森林整備活動団体や住民がそれぞれの手段で伝え広める	農林	【5年後の成果】	【目標】	【結果】5/15新型コロナウイルス感染拡大防止のため森林管理委員会は規模を縮小して行った（可茂森林組合河方課長＋農林課3名）	A
				【内容】 森林管理委員会の実施		
⑬	里山・森林への視察などを受け入れる	農林	【5年後の成果】	【目標】 1件以上の受け入れの実施	【結果】令和2年度の視察の受け入れ団体なし	E
			継続	【内容】 林業団体の受け入れ		

2【生物多様性】貴重な生き物のことをみんなで知ろう！

A～Eの5段階で達成度を評価する
A…100%/B…75%/C…50%/D…25%/E…0% (未着手)

■希少野生生物のことを知ろう

①	生物環境アドバイザーや有識者などと連携し、必要に応じて御高町版レッドデータブックの改訂を検討	環境 モデル	【5年後の成果】 改訂版を検討	【目標】レッドデータブックの改訂に向け庁内で検討する。 【内容】レッドデータブックの改訂の必要性について協議する。	【結果】昨年の庁内で協議した状況と変化はなく、引き続き改訂の必要性や時期等を慎重に検討していく。 【来年】引き続き改訂に向けた検討を継続していく。	C
②	みたけの森などで自然観察会や生き物調査などの実施	環境 モデル	【5年後の成果】 事業を展開	【目標】自然観察会（4回）を実施する。生き物調査（1回）を実施する。 【内容】みたけの森で自然観察会を実施する。可児川でカワゲラウォッチングを実施する。	【結果】新型コロナウイルスの影響により、自然観察会が2回となり、子どもを対象とした生き物調査は中止とした。 自然観察会（10/31）、バードウォッチング（11/28） 生物環境アドバイザーの協力のもと、みたけの森の希少種マップを作成した。 【来年】自然観察会を継続する。カワゲラウォッチングを実施する。	B
③	希少野生生物などが生息する貴重な場を見て知っていただくための整備をボランティア団体（個人含む）などとともに進める	環境 モデル 農林	【5年後の成果】 整備方針策定	【目標】前沢湿地の保全に向けての検討をおこなう。 【内容】学識者や生物環境アドバイザーと前沢湿地の環境改善に向けた作業を実施するとともに経過観察を行う。	【結果】11/7に学識者と生物環境アドバイザーで前沢湿地の保全作業を行い、土壌設置による湿地の変化について、経過観察を継続することとなった。 【来年】前沢湿地の環境改善に向けた作業を実施するとともに、経過観察を継続する。	A
④	幼・保・小・中・高等学校での環境教育や講師派遣講座などで希少野生生物の現状を学ぶ	環境 モデル 教委	【5年後の成果】 幼・保でも実施	【目標】自然体験学習や環境学習等へ講師を派遣する。 【学校教育課】小中学校の環境学習等へ講師を派遣する。 【内容】派遣依頼に基づき、必要に応じて生物環境アドバイザーや担当課職員を派遣し、指導や講話をおこなう。 【学校教育課】小中学校で環境に関する講和をおこなう。	【結果】 【学校教育課】【環境モデル都市推進室】新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。 【来年】講師の派遣を継続する。 【学校教育課】小中学校へ派遣を継続する。	E

■外来種が及ぼす影響を知ろう

⑤	自治会と連携した外来種（オオキンケイギクやアレチウリなど）の生息調査	環境 モデル	【5年後の成果】 マップの作成	【目標】生息状況について情報収集をおこないマップを更新する。 【内容】町民からの情報提供に基づいて、生息・分布状況について把握し、マップを更新する。	【結果】生物環境アドバイザーや住民から得た情報に基づき、生息・分布状況を確認し、マップを更新した。 【来年】外来種マップ更新のための情報収集を継続する。	A
⑥	自治会や各種機関と連携した外来種の駆除活動の実施	環境 モデル	【5年後の成果】 活動を展開	【目標】外来種駆除活動を実施する。 【内容】国交省と連携し、町民とともにオオキンケイギクの駆除活動を実施する。	【結果】新型コロナウイルスの影響により中止となった。 【来年】駆除活動を継続する。	E

■希少野生生物や外来種の現状を伝える（担い手の育成）

⑦	イベント開催時にPRブースなどを展開し参加者への周知を行うとともに町広報紙やHP（SNS含む）、CTKなどを活用し、広く周知する	環境 モデル	【5年後の成果】	【目標】－ 【内容】ささゆりまつりと環境フェアでブースを出展する。	【結果】ささゆりまつり・環境フェアは、新型コロナウイルスの影響により中止となった。町広報紙では、R3年1月号に外来種の駆除に係る活動実績を掲載した。 【来年】－	D
⑧	各種団体や各学校などが活動成果や学んだことを環境フェアなどで発表する	環境 モデル 教委	【5年後の成果】	【目標】－ 【内容】環境フェアにて関係団体がブース出展し、学校が展示や発表を行う。 【学校教育課】小中学校の環境学習のまとめを環境フェアなどで展示または発表する。	【結果】 【環境モデル都市推進室】環境フェアが中止となったため、希少野生生物に関する団体の活動成果については発表ができなかった。 【学校教育課】環境フェアが開催されなかったため、活動の紹介ができなかった。 【来年】－	E
⑨	環境保全団体や住民から情報収集を行うとともに、環境保全団体や住民がそれぞれの手段で伝え広める	環境 モデル	【5年後の成果】	【目標】－ 【内容】各団体・住民から情報を収集するとともに、各団体・住民が情報を発信する場を提供する。	【結果】希少野生生物保護監視員や生物環境アドバイザーから随時情報を収集している。今年度はみたけの森の希少種マップを作成し、みたけの森管理人との間で共有することで、適切な保全の推進を図ることができた。 新型コロナウイルスの影響により環境フェアを中止とした結果、各種団体の情報発信の場が提供できなかった。 【来年】－	B
⑩	希少野生生物の保護や外来種の適切な駆除・指導ができるリーダーの養成	環境 モデル	【5年後の成果】 リーダーが生物環境アドバイザーになる	【目標】リーダー養成講座等を実施する。 【内容】リーダーの養成を目的とした自然観察会の実施および外来種の適切な駆除方法の指導をおこなう。	【結果】自然観察会（10/31）、バードウォッチング（11/28）を実施した。自然に関心がある方の興味や関心を満たし、知識を増やすことができる場を用意できた。 オオキンケイギク駆除は新型コロナウイルスの影響により中止となった。 【来年】自然観察会等を継続的に実施し、アドバイザー候補者の掘り起こしを行う。	C

3【低炭素社会】「移動を“エコ”に！」運動の推進

A～Eの5段階で達成度を評価する
 A…100%/B…75%/C…50%/D…25%/E…0% (未着手)

■ノーマイカーデー運動の推進

①	ノーマイカーデー運動賛同事業所・団体を増やす	企画	【5年後の成果】	【目標】ノーマイカーデー運動賛同事業所・団体が26団体以上増えるよう啓発活動を行い、26団体以上の登録を目指す。	【結果】2021年2月時点で、22団体の登録がある。町内事業者や団体へのアプローチが不足し、登録団体を増やすことができなかった。	B
			26団体	【内容】・みたけ工業団地連絡協議会等にて、町内事業所の方々に対して募集を行う・HP等で賛同事業者、団体を広く募集する	【来年】ノーマイカーデー運動賛同事業所・団体が26団体以上の登録を目指す。	
②	ノーマイカーデー運動賛同事業所・団体の活動実績報告を公表	企画	【5年後の成果】	【目標】ノーマイカーデー運動賛同事業所・団体の活動実績報告等を公表する	【結果】賛同事業者はホームページにて公表しているが、活動実績の公表は行うことができなかった。活動実績を十分に収集することができず、まずもって収集方法について検討が必要である。	C
			公表済	【内容】・賛同事業者、団体の活動実績報告を町のHPや広報紙等で公表する	【来年】ノーマイカーデー運動賛同事業所・団体の活動実績報告等を公表する。	

■公共交通機関の利用促進

③	小・中学校で名鉄広見線は地域にとって必要な社会インフラとの認識を高める交通環境学習を推進	教委	【5年後の成果】	【目標】全小中学校で1回以上実施する。	【結果】新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。	E
			全小・中学校で実施	【内容】社会見学、校外学習などで名鉄広見線を利用する。	【来年】全校で年間1回以上実施する。	
④	コミュニティバスの利用者を増やす	企画	【5年後の成果】	【目標】御高町地域公共交通網形成計画の策定後、各アクションプランを進めていくことで利用者増を図り、年間利用者数：24,500人以上とする。	【結果】令和2年7月に御高町地域公共交通網形成計画策定し、令和3年3月（予定）にバス路線再編計画の策定によるバスルートの見直しや、GTFSDデータの整備、ノンステップバスの導入などアクションプランの推進を図ったが、コロナウイルスの影響により年間利用者数14,777人（1月末時点）と大幅に下回った。	C
			29,000人以上（H33）	【内容】戦国武将のイラスト入り乗車証明書の発行や、コンビニを活用したミーティングポイントの設置等をはじめとしたアクションプランを推進する。	【来年】令和3年4月からコンビニを活用したミーティングポイントの設置や、令和3年10月からバス路線再編計画に基づきルート・バス停名の変更等のアクションプランを推進する。	
⑤	コミュニティバスのバス停や運行ダイヤ等の見直し	企画	【5年後の成果】	【目標】上半期に御高町地域公共交通網形成計画策定後、バスルートの変更について、バス路線再編計画を策定する。	【結果】令和2年7月に御高町地域公共交通網形成計画策定し、令和3年3月（予定）にバスルートの変更について、バス路線再編計画を策定した。	A
			随時	【内容】バス停の場所・名称の変更や、それに伴う運行ダイヤの見直し等を行う。	【来年】令和3年10月からバス路線再編計画に基づきルート変更を実施する。	
⑥	沿線お出かけイベントなどで名鉄広見線（定期外）利用者を増やすとともに利用プラスワン運動の推進	企画 教委	【5年後の成果】	【目標】 [生涯学習課]家庭教育学級での名鉄利用を図る。 [企画課]沿線お出かけイベントなどで名鉄広見線（定期外）利用者を増やすとともに利用プラスワン運動の推進を図り、前年比100%を維持する。 [学校教育課]全小中学校で1回以上実施する。	【結果】 [生涯学習課]乳幼児合同家庭教育学級・各家庭教育学級とも新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため学級を中止したが、乳幼児向け家庭教育学級動画配信において名鉄電車を利用した動画を一本作成した。 [企画課]定期外利用を促進するお出かけイベント等は新型コロナウイルスの影響により実施できなかった。 地域外からの利用促進のため、名鉄とのコラボにより広見線フリー乗降と沿線飲食店等の割引サービスの受けられる「みたけ・可児散策きっぷ」を販売し、125枚の販売実績となった。 [学校教育課]2校が目的地まで名鉄広見線利用を実施した。新型コロナウイルスの影響で実施校、実施回数が増えた。 伏見小学校：11/5 生活科「みんなでつかうまちのしせつ」見学・調べ学習（中山道みたけ館）、 共和中学校：9/17 ほほえみ学級作品鑑賞（中山道みたけ館）	C
			180,000人	【内容】 [生涯学習課]各家庭教育学級での活動内容に名鉄の利用を取り入れる。 [企画課]名鉄広見線守ろう会による毎月1回お出かけイベントを継続して実施する [企画課]名鉄企画きっぷのPRを行い、地域外からの利用を促進する [企画課]活性化協議会のイベント等を随時開催する [企画課]活性化協議会の運賃等補助制度の周知をする [学校教育課]社会見学、校外学習などで名鉄広見線を利用する。	【来年】 [生涯学習課]子どもが安心して電車に乗る楽しみを体験できるよう、継続して実施する。 [企画課]沿線お出かけイベントなどで名鉄広見線（定期外）利用者を増やすとともに、新型コロナウイルスの影響により減少した各種定期券利用者を元に戻す。 [学校教育課]全校で年間1回以上、目的地まで名鉄広見線利用を実施する。	

■移動によるCO₂（二酸化炭素）排出を削減

⑦	電気自動車の急速充電器利用者（御嵩駅前駐車場）や各企業の普通充電器の利用者を増やす	環境 モデル	【5年後の成果】	【目標】70回/月の利用	【結果】125回/月（4月～1月の平均）の利用があった。	A
			70回/月 （御嵩駅前P）	【内容】急速充電器の設置場所等の周知をおこない、利用促進を図る	【来年】ホームページ等で周知を継続し利用者数の維持を図る。	
⑧	御嵩駅のレンタサイクル利用者を増やす	まち	【5年後の成果】	【目標】利用者340人を達成する。レンタサイクルの有料化を行う。	【結果】新型コロナウイルス感染拡大防止による外出自粛の影響もあり、1月末時点で74名の利用に留まっている。	D
			418人（H31）	【内容】レンタサイクルの有料化を行い財源を確保する。利用者情報の収集によりPR方法を検討する。	【来年】引き続き収益事業として持続可能なレンタサイクル事業を展開し、財源確保に努める	
⑨	自転車移動ができる魅力ある観光地巡り旅の考案	まち	【5年後の成果】	【目標】既存の観光地巡り旅のPRや関連したイベントを企画、開催する。	【結果】周遊観光の取り組みの一環として、八百津町とのサイクリングマップ作成に取り組んだものの、イベント等の開催には至っていない。	C
			考案済	【内容】観光ガイドブック、サイクリングマップの作成、近隣市町との周遊観光を推進する。	【来年】本年作成したサイクリングマップを活用し、コロナ化を見据えた周遊イベントを開催していく	

■ノーマイカーデー運動の推進や公共交通機関の利用を伝える

⑩	イベント開催時にPRブースなどを展開し参加者への周知を行うとともに町広報紙やHP（SNS含む）、CTKなどを活用し、広く周知する	企画	【5年後の成果】	【目標】	【結果】「みたけの森花あるき」、「よってりやあみたけ夏祭り」、「御嵩あかでんランド」といった名鉄利用参加者が多く募るイベントが軒並み中止となったことから利用啓発活動が十分にできなかった。	C
				【内容】・「中山道往来」などのイベントへ名鉄を利用するよう促す・イベント告知の際に、公共交通機関の利用を推進する。・活性化協議会のイベント等を様々な媒体を活用して周知し、利用促進に効果のある情報発信を行う。・イベント「御嵩あかでんランド」内のアトラクション要素として電車を利用していただく仕組みを多く取り入れ、町内外の利用啓発を図る。	【来年】-	
⑪	各種団体や各学校などが活動成果や学んだことを環境フェアなどで発表する	企画	【5年後の成果】	【目標】	【結果】新型コロナウイルスの影響により環境フェアは中止となったが、中山道みたけ館やラスバ御嵩店で名鉄広見線（新可児駅～御嵩口駅間）100年の歴史を振り返るパネル展の実施や、御嵩小学校及び東濃高校での公共交通に関する特別授業を実施した。	B
				【内容】・環境フェア等にて団体とともに、公共交通の利用を推進する情報発信および展示を行う	【来年】-	
⑫	各種団体や住民から情報収集を行うとともに、各種団体や住民がそれぞれの手段で伝え広める	企画	【5年後の成果】	【目標】	【結果】町内及び可茂管内の高等学校に補助制度を周知し、利用促進のための啓発を行った。 御嵩町・可児市の沿線内外の住民を対象にアンケートを実施し意識調査をした。 名鉄広見線活性化協議会も主要4種SNS（LINE、Facebook、twitter、Instagram）を運用し、積極的な情報発信に努めた。	A
				【内容】・活性化協議会のイベント補助制度を周知し、各種団体がイベントを実施しやすい環境を整える・団体の集まりやイベント時に公共交通機関を利用するよう周知する・町民等による自主組織活動（御嵩あかでんランド実行委員会、名鉄広見線を守ろう会等）をHPやSNSで取り上げ、町全体が一丸となって展開していることを積極的にPRしていく	【来年】-	
⑬	コミュニティバスや名鉄広見線の乗り継ぎなどを分かりやすく表示する	企画	【5年後の成果】	【目標】	【結果】バスマップ設置の継続に加え、バスマップのデザインを見直し、利用頻度が高い名鉄駅、医療機関、スーパーに近接しているバス停の配色を変更することで、名鉄広見線への乗り継ぎ等の視認性の向上を図った。	A
			表示済	【内容】・名古屋鉄道に対して、主に観光案内に関する有用性を説くことによりデジタルサイネージの設置について折衝を進める。	【来年】-	

4【資源循環】生ごみ減量と緑を育む運動の推進

A～Eの5段階で達成度を評価する
 A…100%/B…75%/C…50%/D…25%/E…0% (未着手)

■堆肥などによる生ごみの減量化

①	各家庭において生ごみの堆肥化に取り組む	住環	【5年後の成果】 430人	【目標】ダンボールコンポスト講習会を開催する (定員20名) 【内容】ダンボールコンポスト講習会をわいわい館で開催する (定員20名)	【結果】ダンボールコンポスト講習会を延期することになり開催したが6名の参加であった。 【来年】ダンボールコンポスト講習会を開催する。	B
②	ダンボールコンポストなど堆肥化する機器の普及 (補助金の活用)	住環	【5年後の成果】 430人	【目標】生活環境設置施設設置補助金を20件交付する 【内容】ダンボールコンポスト等の購入時に生活環境整備施設設置補助金を交付する	【結果】1月末で23件(ダンボールコンポスト6基、設置型コンポスト2基、電動式生ごみ処理機6基、剪定枝葉粉碎機9基) 【来年】生活環境施設補助金の交付件数を25件を目指す。	A
③	各家庭でできた堆肥をポイント化する制度を構築	住環	【5年後の成果】 100人	【目標】他市町村の事例を調査する。 【内容】他市町村の事例を調査し、検討する。	【結果】市の施設で堆肥を受け入れる北九州市等の場合と異なり、御嵩町では堆肥の自家消費が定着しつつあるため、現在の方向性とは一致しない。 【来年】目標として維持するのかを再検討する。	C
④	料理教室やエコクッキング講座の実施	住環	【5年後の成果】 年3回 100人	【目標】親子向けの和食講座を開催する (定員20名) 【内容】親子向け和食講座を中公民館で開催する (定員20名)	【結果】親子向け和食講座は新型コロナウイルスの影響により中止した。 【来年】コロナ禍であり実施時期等は未定。	E
⑤	町民菜園を有効利用して堆肥を利用できる仕組みを作る	住環 農林	【5年後の成果】 4菜園で実施	【目標】農林課と協議し、可能性を検討する。 【内容】農林課と協議し、可能性を検討する。	【結果】町民菜園での受け入れの可否は、安全かつ肥料として適しているかと利用者が他人の作った堆肥を受け入れるかであるため、現実的に困難。 【来年】目標として維持するのかを再検討する。	C

■グリーンカーテンづくりでエコと緑を育む

⑥	各家庭や事業所においてグリーンカーテンづくりに取り組む	環境 住環 教委	【5年後の成果】	【目標】 【内容】[環境モデル都市推進室・住環境課]節電チャレンジの実施項目の一つとして取り組みを呼びかけるとともに、住環境課と連携し、プランターでおかわかめの緑のカーテン作り講習会を定員40名でわいわい館等で開催する。 [学校教育課] <上之郷小学校>・グリーンカーテン作り (4年生)	【結果】 [環境モデル都市推進室]節電チャレンジ実施世帯の内、約半数がグリーンカーテンやすだれ等による日差しのカットを取り入れ、エコ活動を実践した。 [学校教育課] 上之郷小学校でグリーンカーテン作りを実施した。 [住環境課] ゴーヤで緑のカーテンづくり講座は中止した。 【来年】-	C
⑦	住民と行政の協働により公共施設にグリーンカーテンなどで空間の緑化を実施する	環境 住環	【5年後の成果】 全公共施設にて実施	【目標】グリーンカーテン実施施設を増やし、全公共施設にグリーンカーテンを設置する。 【内容】保育園や公民館等に苗や必要物品を支給し、グリーンカーテンを実施する。全公共施設にグリーンカーテンを設置できるように協議する。	【結果】4施設(上保・上小・御小・伏公)でグリーンカーテンを実施した。 【来年】公共施設への働きかけを継続する。	D
⑧	グリーンカーテンコンテストや育った食材で作るお料理アイデアの募集	住環	【5年後の成果】 イベント実施済	【目標】グリーンカーテンに取り組めるような講座を開催する。 【内容】グリーンカーテン作り講座をわいわい館で開催する。	【結果】ゴーヤで緑のカーテンづくり講座は、新型コロナウイルスの影響により中止した。 【来年】グリーンカーテン作り講座を開催する。	E
⑨	グリーンカーテンと節電などでCO ₂ 排出量削減を目指す	環境 住環	【5年後の成果】 15.9万t-CO ₂ (H30)	【目標】節電チャレンジの実施世帯を増やす。 【内容】節電チャレンジについての周知啓発をおこない、節電活動への動機づけを図る。	【結果】節電チャレンジを2回実施し、夏191世帯、冬169世帯(3/9現在)の参加を得られ、実施世帯を増やすことができた。 【来年】節電チャレンジの継続と実施世帯の増加を目指す。	A

■ごみの減量化やグリーンカーテンの有効性を伝える

⑩	イベント開催時にPRブースなどを展開し参加者への周知を行うとともに町広報紙やHP（SNS含む）、CTKなどを活用し、広く周知する	住環	【5年後の成果】	【目標】	【結果】環境フェアが中止となりごみ減量のPRは出来なかった。	E
				【内容】環境フェア等でごみ減量のPRを行う	【来年】-	
⑪	各種団体や各学校などが活動成果や学んだことを環境フェアなどで発表する	住環 教委	【5年後の成果】	【目標】	【結果】 [学校教育課] 環境フェアが開催されなかったため、学校の環境学習の成果を役場北庁舎に展示（2/15～3/12）した。 [住民環境課] 環境フェアが中止となったため、廃油石鹸の配布ができなかった。	E
				【内容】 [学校教育課] 小中学校の環境学習のまとめを環境フェアなどで展示または発表する。	【来年】-	
⑫	各種団体や住民から情報収集を行うとともに、各種団体や住民がそれぞれ的手段で伝え広める	住環	【5年後の成果】	【目標】	【結果】ゴーヤで緑のカーテンづくり講座を企画したが中止となった。	E
				【内容】各種団体と協議し、周知を図る	【来年】-	
⑬	環境モデル都市として、地球温暖化や温室効果ガス削減をテーマにした作品展の開催	環境 モデル	【5年後の成果】	【目標】環境モデル都市作品展を開催し、出展数の増加を図る。	【結果】作品応募は20作品で前年より下回ったが、コロナ禍の短い夏休み期間の間では期待以上の応募があった。中山道みたけ館と御嶽宿わいわい館で作品展を開催した。	B
				【内容】昨年の応募数（32点）を上回る数の作品を集め、作品展を開催する。優秀な作品については環境フェアで表彰する。	【来年】作品展の開催を継続し、環境意識の向上を図る。	